



仏教寺院からみた日本中世の中央と地方

東京大学史料編纂所/

日本学術振興会外国人特別研究員

黄 霄龍



専門は日本中世仏
教史、社会経済史。
北陸地域。ローカ
ルの話。



- ・ 仏教を手掛かりに中央と地方の関係を考える。地域経済、地域権力、中央の（宗教）権力。

■ 拙稿Authority and Competition: Shingon Buddhist Monastic Communities in Medieval Japanese Regional Society (権威と競争—日本中世地域社会の真言寺院集団), *Japanese Journal of Religious Studies* 48(1) に基づき考える。

- 中央的仏教寺院は門徒にとって宗教的・政治的権威であるが、地方寺院の門徒にとっては、中央寺院との繋がりには時に衝突と競争をもたらす。

本末関係

本寺

保護、住持の任命、宗教行事への支援

末寺

金銭的負担

- ・ 滝谷寺（たきだんじ 福井県坂井市）を事例に検討。永和三年（一三七七）に睿憲（えいけん）によって創建。醍醐寺（京都）の有力院家報恩院の法流を汲む。

- ・ 地域権力である戦国大名朝倉氏との関係。

- ・ 十四世紀から十五世紀にかける滝谷寺とその門徒寺院の実態、及び十六世紀に入った後の変容、滝谷寺と門徒寺院以外の真言寺院との交流と競争を解明。

- ・ 中央の真言僧による地方社会での付法の歴史的意義を再考。

日本中世後期の中央と地方



このエリアを検索

越前三国湊 海船や

三国湊道院

みなとオアシス 三国湊

三国湊城跡

あわら市

坂井市

えちぜん鉄道三国芦原線

北陸本線

九頭竜川

Google



現在の三国湊



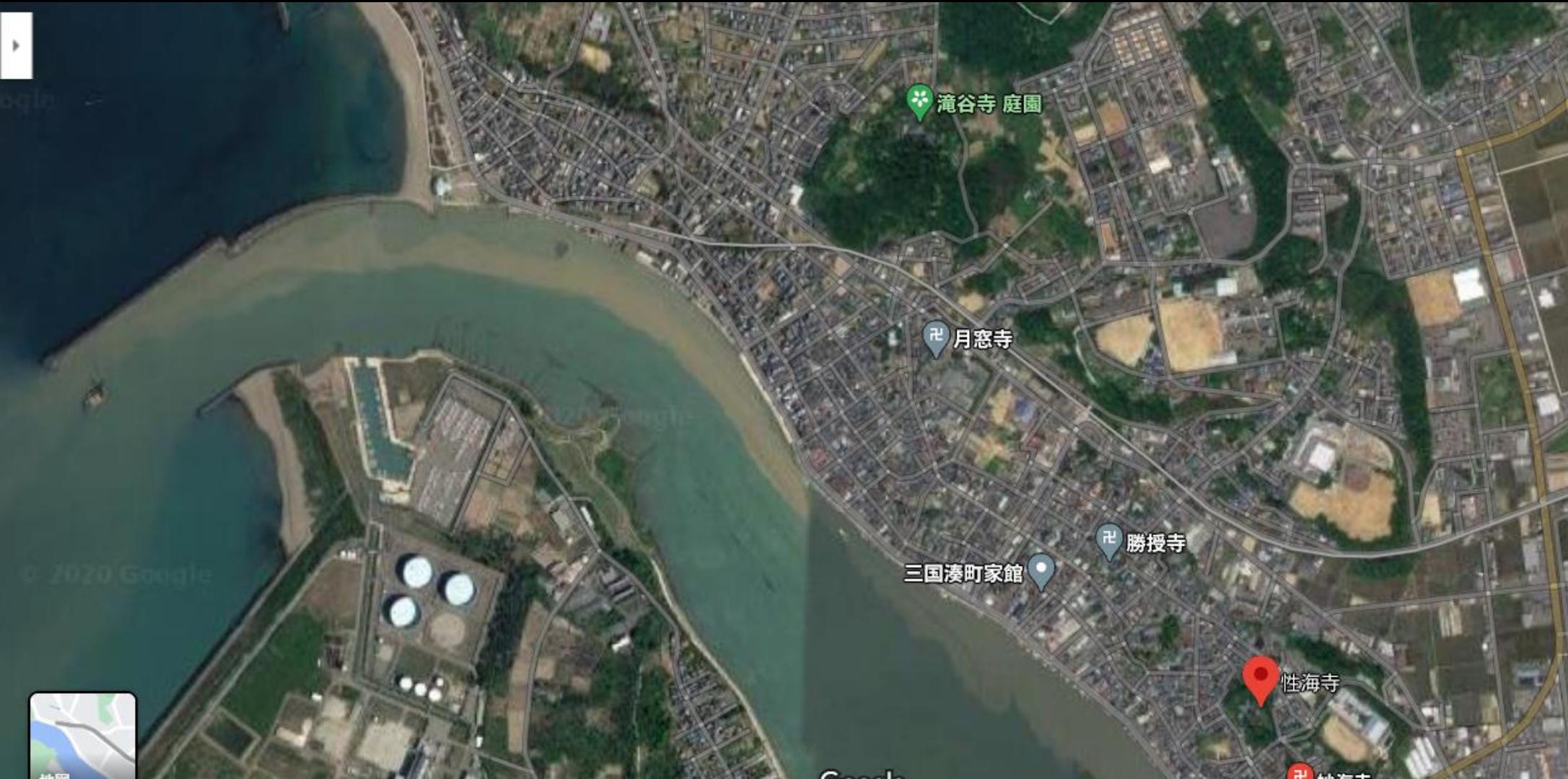
14世紀真言寺院滝谷寺の創立

睿憲 美作国
(岡山) の出身



14世紀真言寺院滝谷寺の創立

睿憲 美作国
(岡山) の出身



日本寺院の聖教（しょうぎょう）

- 釈尊の教え
- 諸宗の祖師の著述
- 多くの寺僧が修学・法会・教化のために作成した著述

根来寺
醍醐寺
金沢文庫 (称名寺
聖教)



聖教の管理

一、当寺灌頂等道具、設雖為密室之門徒同朋、於有所用者来至於当本寺可令借用勤行者也、全不可出於他処事、況於他門之輩哉、

一、当院所納置聖教等雖為少分、全不可移他処事、但当住之人弘通利益之間可為其計、努々号我物不可隨身於他処者也、

一、当所草木等事、坊室各々四壁之限或萱下夷或林下枝可為坊主計松栢等本切更々不可為坊主計、惣相草木等一向為談議所之計可被用造宮興行之詮要者也矣、

已上十七ヶ条

右所定置之条々、知恩堅信之弟子等永守此等格式敢不可違犯也、若於背此等掟致僻儀之輩者、寺住之衆徒等同心遂評定可被追放其身者也、仍世々累代置文之状如件、

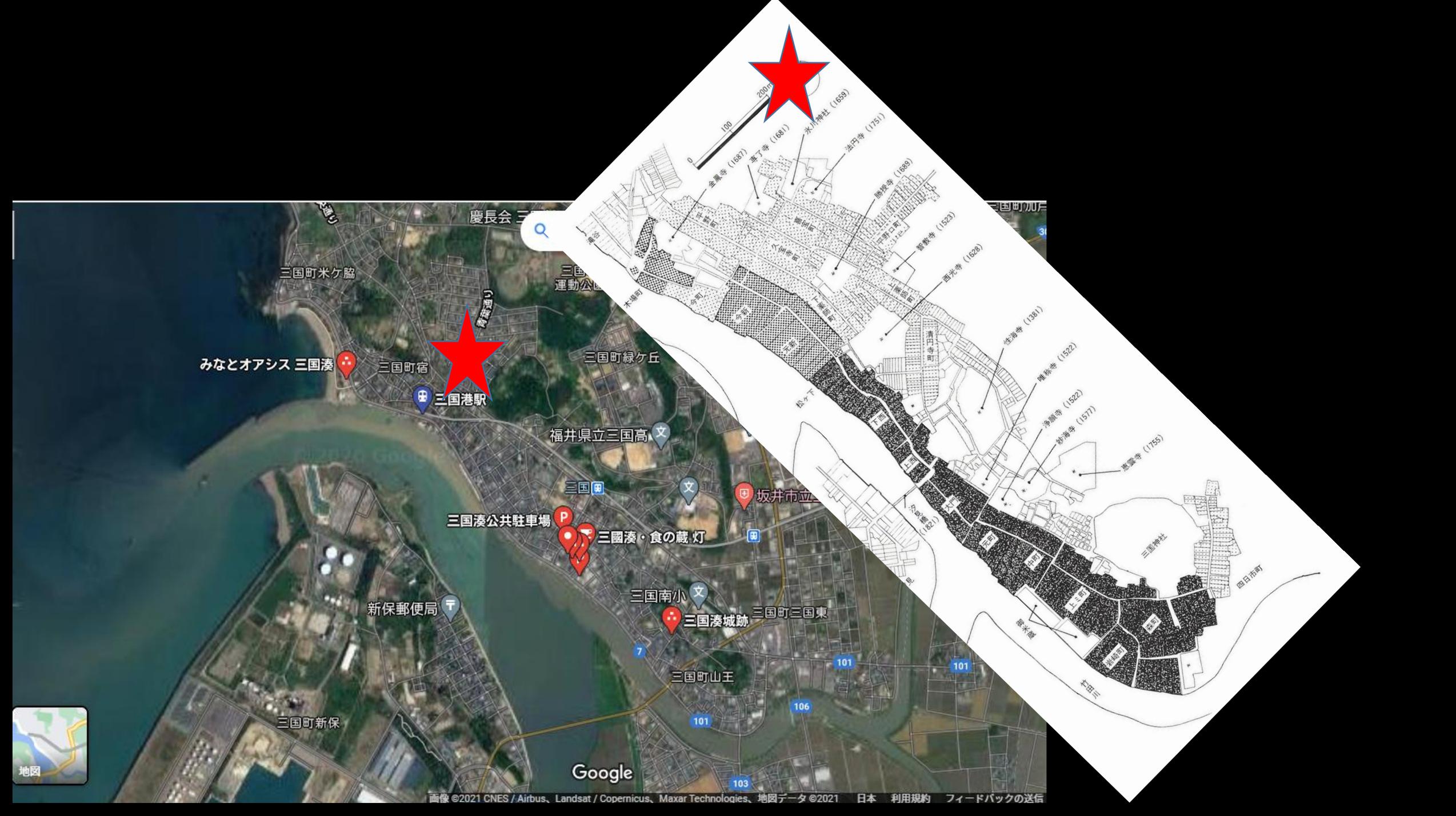
永徳弐年<壬戌> 四月七日 仏子睿憲在判

滝谷寺開山睿憲の聖教書写



睿憲はなぜ三国湊に拠点を作ったか





みなとオアシス 三国湊

三国町宿

三国港駅

福井県立三国高

三国湊公共駐車場

三国湊・食の蔵灯

三国南小

三国湊城跡

三国町三国東

三国町山王

三国町新保

新保郵便局

Google

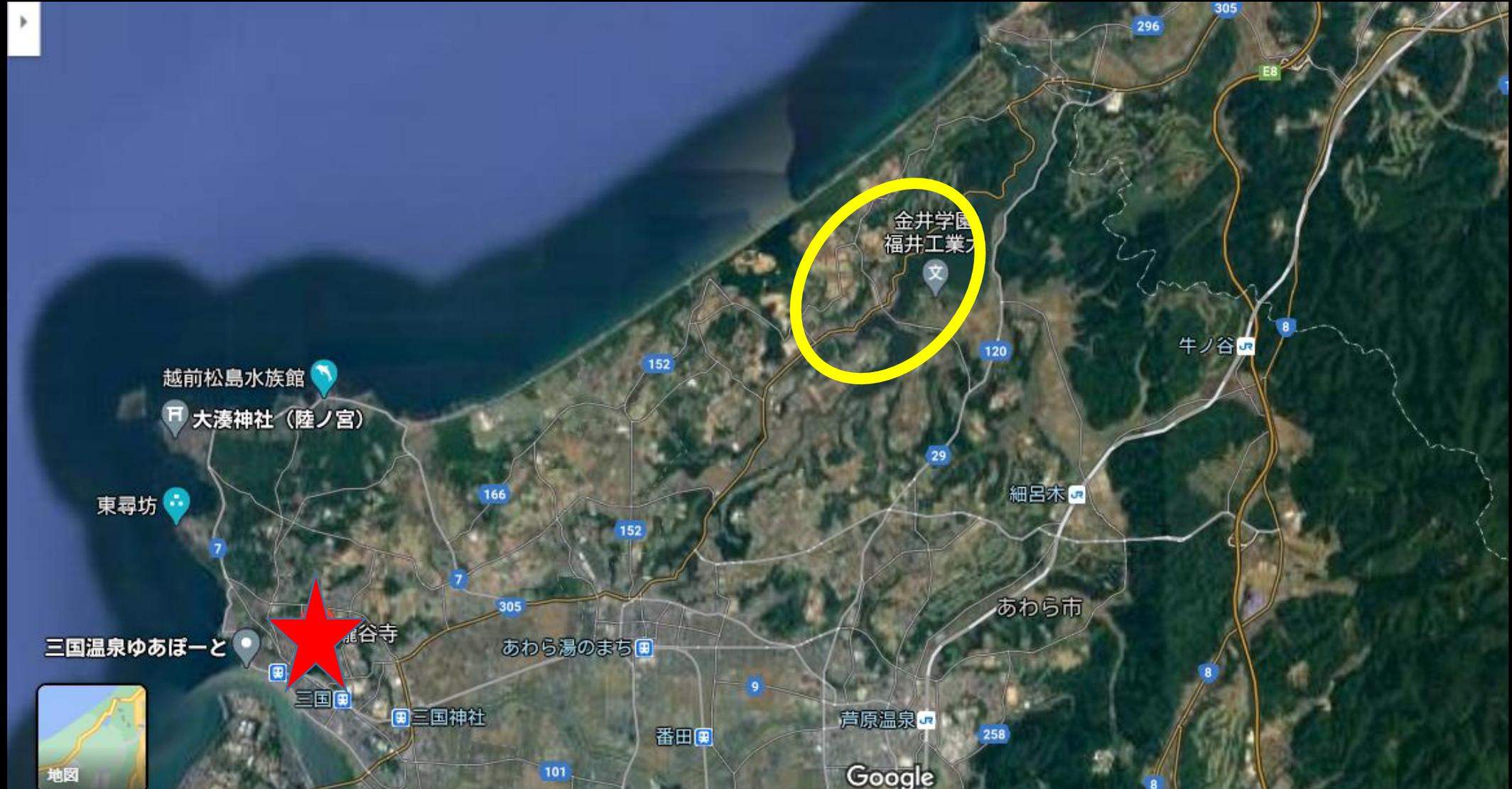
15世紀滝谷寺の末寺と門徒

越前國寺々奉加
合

寶珠院	不動寺	一王寺	燈臺寺	十部寺	長福寺	大善寺	彼岸寺	楊巖寺	静養寺	神樂寺	龍谷寺	朝日寺	鳴山寺	大龍寺	岸水寺	田舎寺	法長寺	真光寺	寶積寺	三峯寺	新覺寺	應神寺	鈿神寺	大觀寺	同寺	豊原寺
卷拾人	八人	六人	十人	七人	五人	六人	四人	十人	四人	十一人	七人	十一人	十二人	三人	十六人	十人	三人	六人	三人	十四人	五十四人	七人	六人	四十六人	拾人	卷拾人
卷拾人	七人	七人	七人	七人	七人	七人																				

京都府立京都学・歴史館 東寺百合文書WEBから加工

滝谷寺における伝法灌頂と門徒の拡大



滝谷寺伝法灌頂職衆定書（『瀧谷寺の文書と寺宝』 所収『法燈関係文書』十九）

伝法灌頂職衆事

頼職大僧都<唄 咒願>

八重巻寺大僧都

一王寺大僧都

多聞院大僧都

源空大僧都<散花>

已上持金剛衆

善行院少僧都

宝珠院少僧都

栄照法印

用世大僧都

栄泉院大僧都

神羽寺法印

安養院法印<誦經>

慈光院大僧都

阿弥陀院大僧都<讚>

右、来五日、於_二瀧谷寺_一可_レ被_レ行_二伝法灌頂_一職衆請定如_レ件、

弘治三年三月廿七日 行事

大阿闍梨権大僧都 法印 実隆

京都醍醐寺報恩院との関係

- 醍醐寺：様々な宗教的資源と人脈を提供
- 越前の真言寺院：マンパワーと金銭を提供

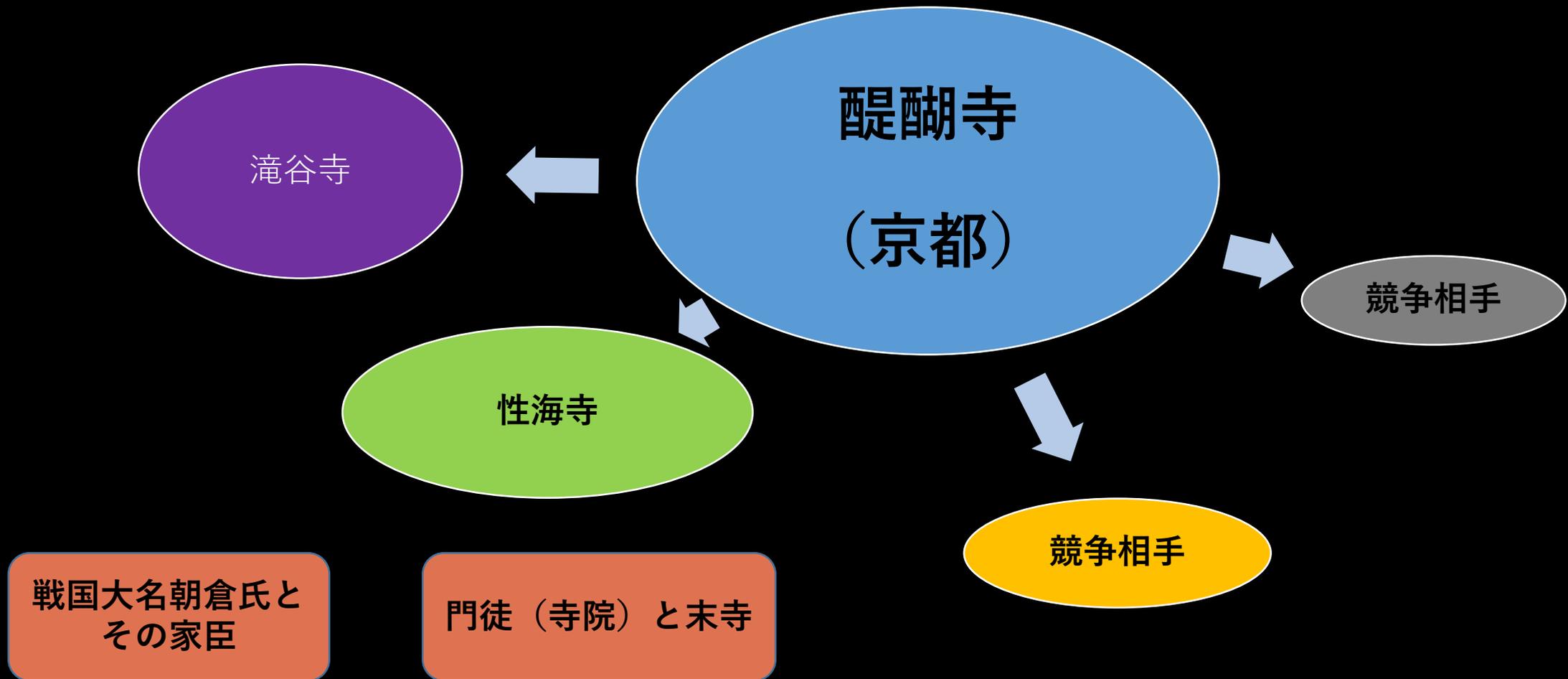
報恩院源雅書狀(『滝』七七)

国中静謐之由慥奉及候之条召_二下人_一候、門下中へも卒度音信候、一々雖_二可_レ申候_一、為_二御能化_一得_二其意_一取成可_レ為_二本望_一候、仍油煙五丁進入候、聊表_二祝儀_一候、猶委曲自_二行樹院_一可_レ被_レ申候間、不_レ能_二巨細_一候、恐々謹言、

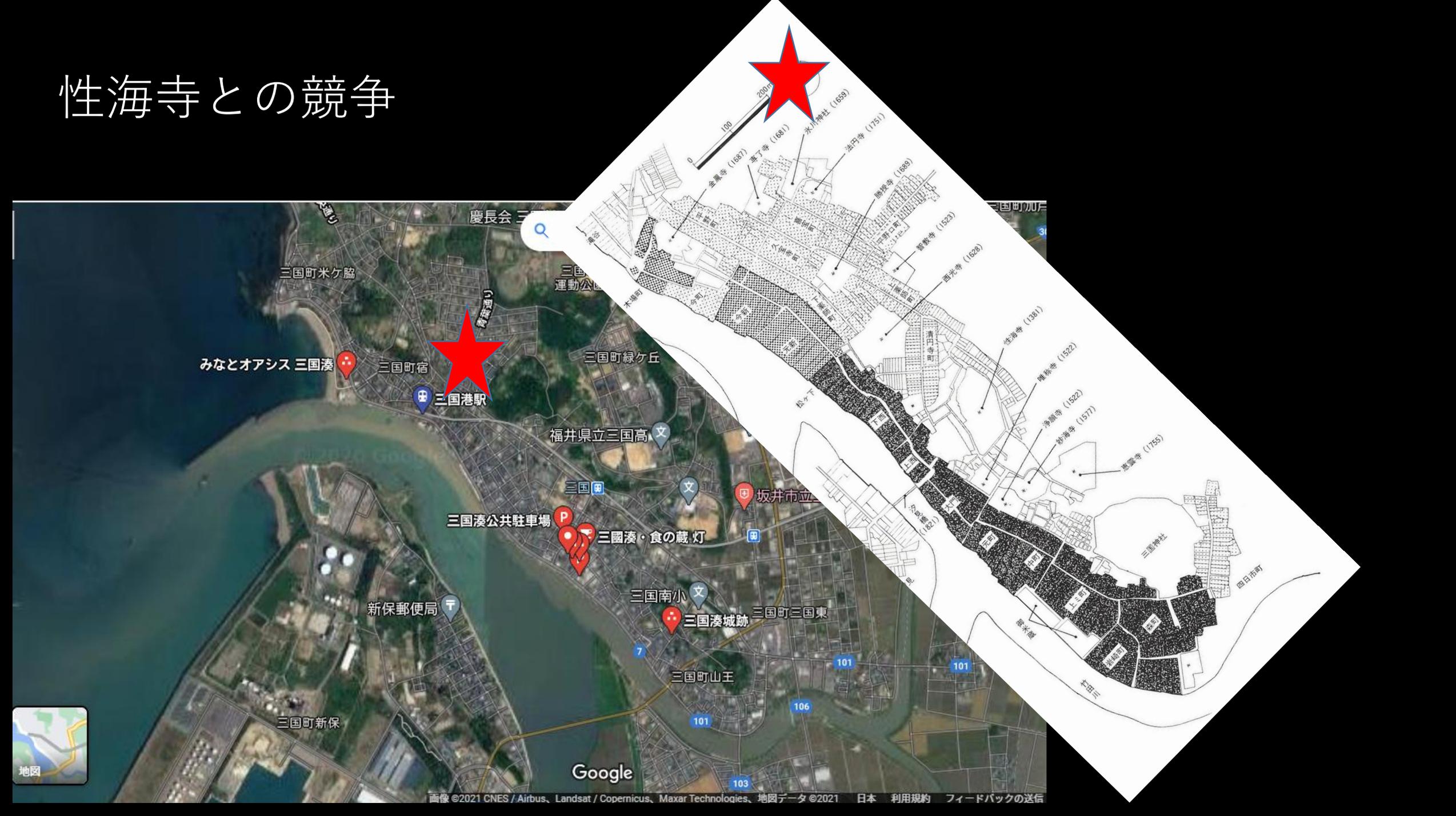
前大僧正源雅 (花押)

滝谷寺

16世紀 滝谷寺とそのほかの真言寺院の競争と衝突



性海寺との競争



惣持寺との競争



岸水寺衆僧申状（『滝』五六）

乍、恐令啓上候、仍滝谷寺申状被爲披見候、先以忝存候、就其当寺御事者、自先規金津惣持寺江致出入、代々伝法之血脈相承仕来候を、彼寺今新儀申出、可出入之由被申上候御事、近比覚悟之外存迷惑不過之候、此等之趣宜以御披露、于今有来候筋無紛様被仰届候者、衆僧忝可奉存候、恐惶謹言、

十二月十三日

真恵（花押）

（中略）

円慶（花押）

三段崎門尉殿 参 人々御中

岸水寺

戦国大名朝倉氏の庇護

追加

一、開山以来当寺之法流相伝之諸寺、不可成他門事、＜付門中之諸僧、寺内之阿闍梨并当寺之外於他寺他国不可受伝法灌頂等之事、＞

一、門中之僧侶望開壇事、為弘通利益糺法器從当寺可許之、末寺之阿闍梨不可許之、況不經当寺之儀而、恣灌頂等不可執行之事、

一、寺内之坊主師弟之契約無之、或死去、或退出之族於在之者、彼跡可為院家計、同朋并縁者親類等惣而不可競望事、

(裏書) 「当寺開山睿憲十七ヶ条寺法并追加五ヶ条之旨不可有相違者也、

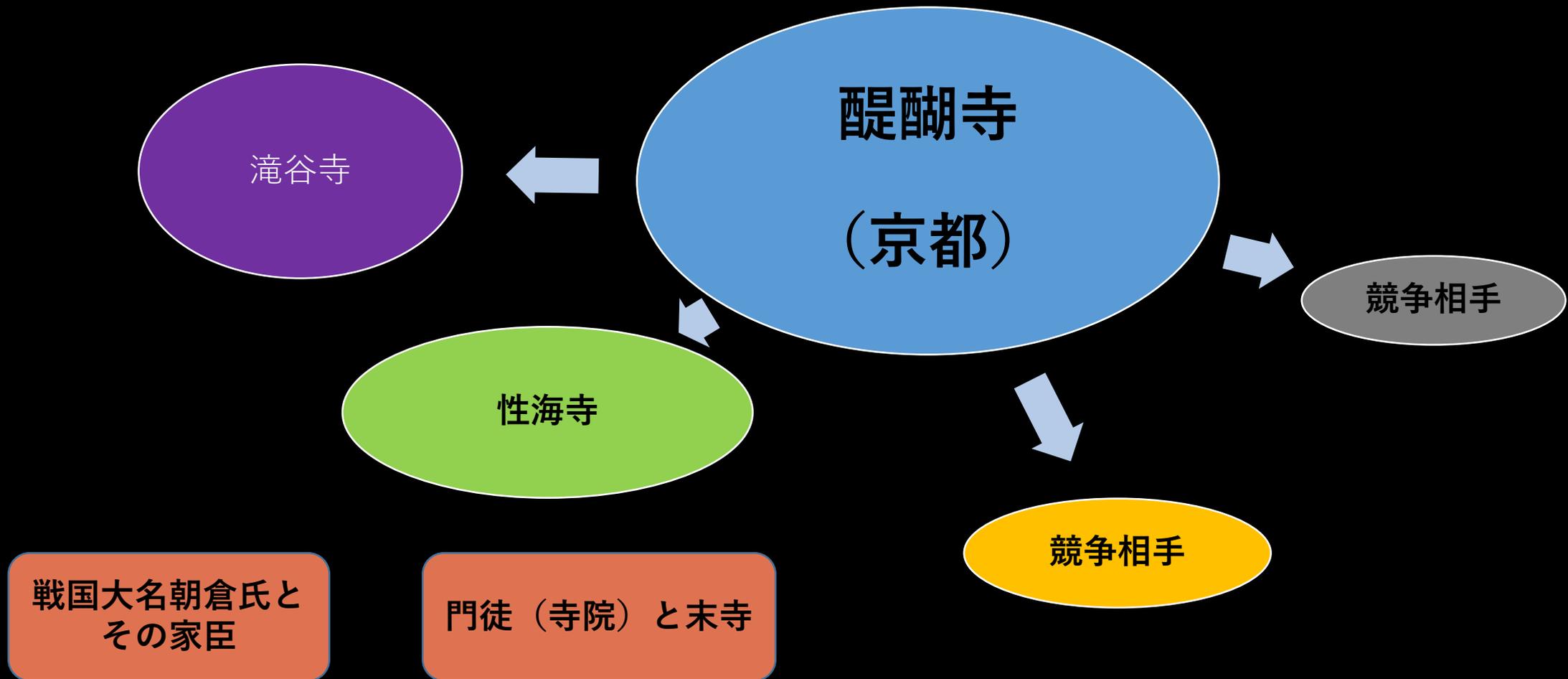
永禄七年十月廿五日

(朝倉) 義景 (花押) 」

滝谷寺の経済基盤

- 1) 領主からの所領寄進、土地買得（朝倉氏より安堵）
 - 2) 山林竹木
 - 3) 祈祷費用の差額？
 - 4) 領主（堀江氏）の臨時布施
- ・ 性海寺も基本一緒。

16世紀 滝谷寺とそのほかの真言寺院の競争と衝突



小課題

中世日本における仏教の社会的浸透（寺院の建立、信者の獲得など）を影響する要素をいくつか挙げよう。